

日頃の教育に対する工夫、及び今後の教育への抱負

Asubar Joel Tacla

今年は、半導体工学と並んで私の得意分野である電子デバイスの科目を教える機会を与えてくれた電気電子講座にとっても感謝しています。私は教えることが好きです。教員を天職としている私は、「できる人はする。できない人は教える」という、あまり親切ではない言葉が意外に面白いと思っています。この言葉は、ノーベル文学賞受賞者ジョージ・バーナード・ショーの1905年の舞台劇「人間とスーパーマン」から抜粋したものです。この言葉は、「教師とは、自分の選んだ分野で重要な貢献ができない人がする役割である」ということを示唆しています。しかし、私はそうは思いません。ノーベル物理学賞を受賞したリチャード・ファインマンは、まさに「行動する人」と「教える人」を体現したような人でした。彼の科学者としての量子電磁力学への貢献と、カリフォルニア工科大学における魅力的な講義は、約60年後の現在もなお、影響力と力強さを持ち続けています。ファインマンの科学に対する好奇心と教育への情熱を参考に、私は日々、教職に尽力しています。

私は学生を学習のパートナーとして考えています。また、私自身も謙虚な学生の一人、つまり常に学び続ける者であると考えています。学期が始まると、私はいつも彼らに「一緒に勉強しよう」と講義中に声をかけ、彼らと同じように私もまた学生であるとの考えを伝えています。毎回の講義において、私は入念に準備することを心がけています。講義の前に学生に教材を渡し、その日の講義を前回の講義と関連付けて説明しています。講義では、教科書に書かれていることに加えて、自分が経験したことを取り入れるようにしています。さらに、第一原理から段階的に方程式を導出し、図、図表、視覚的表現も用いて、確立された知識に新しい視点を与えることに全力を尽くしています。実際、半導体デバイスとその興味深い電気的特性を見せると、眠そうな学生が目覚めることが時々ありました。また、講義の後は学生に感想を聞いています。学生達のコメントや評価は、私の今後の講義をさらに改善するための大事な指針です。良い教師は、学生のニーズに耳を傾け、考慮すると信じています。

私はまだ日本語を学んでいるので、自分の意見を主張するのに最適な日本語の単語や文章を使用することが苦手であることを認識しています。しかし、私は好奇心旺盛です。幸運にも、福井大学には私が心から尊敬し敬服する先生方が数多くいらっしゃいます。このような尊敬する福井大学の先生方との交流は、私の日本語能力を高め、日本語で講義を行う際に必要な落ち着きを与えてくれました。最後に、私は学生達に、好奇心と自信を持ち続けることを勧めたいと思います。福井大学は、教育だけでなく、科学的な研究にも貢献できる、知的な頭脳の宝庫だと思います。